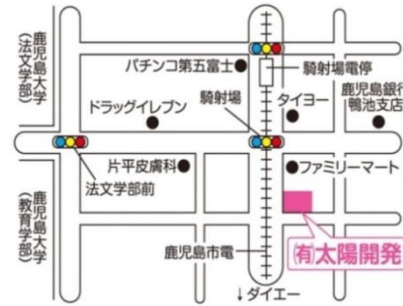


SUNSHINE

第 87号 2015年 10月発行
 有限会社 太陽開発
 鹿児島市鴨池2丁目1-12 TEL099-255-3623
 E-Mail master91@taiyou1991.com



太陽開発 検索 クリック!!

賃貸マンション(オーナー様)をご紹介します!

第一マンション紫原 オーナー 八汐様

今回ご紹介させて頂くのは、八汐様が所有されている紫原4丁目にある【第一マンション紫原】です。紫原の大通りから1本入った通りに位置しており、タイヨー・コープ・コンビニ・薬局など徒歩3分以内にさまざまなお店があるので、とっても便利な場所です。個人的には紫原の中では一番便利のよい立地だと思います。間取りは全部屋2DKの広さで、単身者からカップルまたは、ファミリーまで使える多様な間取りです(*^^)v 駐車場は各部屋1台ずつ確保しております。現在空室になっているお部屋は2階の角部屋で和室を洋室にリフォームしております。ダイニングキッチンも統一して明るい色の床に張替えることで解放感あふれるお部屋に仕上がっております(^^)♪ トイレの床もオシャレなシートを張ることにより圧迫感のない空間となっております☆ 賃貸担当全員で早く満室になるよう努めたいと思います♪



和室から洋室へ



今月の一冊

No.86

陽だまりの彼女

越谷オサム



1971(昭和46)年、東京生まれ。2004(平成16)年、日本ファンタジーノベル大賞優秀賞受賞作『ホーナス・トラック』でデビュー。他の著作に『階段途中のピグ・ノイズ』『陽だまりの彼女』『空色メモリ』『金曜のバカ』『せきれい荘のタル』など

幼馴染みと十年ぶりに再会した僕。かつて「学年有数のバカ」と呼ばれ、冴えないジメられっ子だった彼女は、モテ系の出来女へと驚異の大変身を遂げていた。でも彼女、僕には計り知れない過去を抱えているようで...その秘密を知ったとき、恋は前代未聞のハッピー・エンドへと走り始める!誰かが好きになる素敵な瞬間と、同じく切ない切なさも、すべてつまった完全無欠の恋愛小説。(新潮文庫裏表紙より) “女子が男子に読んでほしい恋愛小説No.1”のキャッチコピーが話題を呼び、累計販売部数100万部を超える大ベストセラーとなった。2011年、啓文堂書店「おすすめ文庫大賞」受賞。

“女子が男子に読んでほしい恋愛小説No.1”のキャッチコピー、松本潤、上野樹里主演での映画化、そしてこの表紙(←)・・・さぞかしかわいらしい、ベタ甘な恋愛小説なんだらうと手を出さずにかいた『陽だまりの彼女』。このところちょっと難解な長編小説が続いたので、ここで少し息抜きにと、娘の本棚にあったこの作品を手にとってみました。はまった!すごく面白い!解説の瀧井朝世氏の言葉をそのままお借りすると、“ベタ甘な恋愛小説と思わせておいて、おや、ミステリー要素もあるんだなと興味を掻き立て、途中からは悲恋もの?と不安にさせながら、最終的にはファンタジーであったのだと発見させる”～本当に読み手の心を振り回す小説です。それで、一気に二回読み、すぐにVDVの借りに映画も観ました。映画もすごくいい。真緒役の上野樹里がとにかくかわいい!普通の青年・浩介役の松本潤も素敵。また、それぞれの中学生時代を演じた、葵わかなちゃん、北村匠海君も初々しくとってとってもかわいい♡私としては、若い二人の恋より、私の娘と同じ年の真緒のご両親にすっかり感情移入。ご両親との絡みのシーンはもう、涙・涙…。映画では、原作に無いキャラクターも登場していますし、ラストも少し変わっていました。個人的には、原作のラストの方が好きかな。音楽もすごくいいですよ。音楽を効果的に使えるのが、映画の強みですね。本も映画もとっても素敵なので、是非是非皆さんも手に取ってみてください。「陽だまりの彼女」ってタイトルも素敵ね。真緒の秘密が明かされた時、胸が震えました。悲しくなって、でもその後、とっても嬉しくなりました。貴方はどうかな?

居酒屋 さばお(左馬男)

オーナー 平田 友馬様



鹿児島市荒田2丁目24-15

◆営業時間◆ 17:30 ~24:00
 ◆定休日◆ 不定休
 ◆TEL◆ 099-251-6967



今回、ご紹介するお店は去年2月に荒田2丁目にOPENした【居酒屋さばお】さんです。こちらのお店は、いつも仲良くさせて頂いている業者さんのご紹介で食事に行きました。20席程あるお店は、いつも賑やかで、仕事帰りのサラリーマンやOLさん、女子会、お子様連れのご家族など、年齢を問わず来店され、みんなに愛されています。

“左馬男(さばお)”という屋号は、ご自分の名前に「馬」が入っていて、「左馬(ひだりうま)」という福を招く商売繁盛の守り駒にあやかり、和食のお店らしい響き、そしてみんなに覚えてもらいやすい名前など、考え抜かれて決められたそうです!素敵な屋号ですね。

お店の料理に使われてるお味噌やポン酢は手作り、添加物は一切入れない!また、冷凍も一切使わない!というのがオーナー平田様の一番のこだわりだそうです。

平田様は、『さばお』を立ち上げるまでに鹿児島では和食のお店で修業をされ、東京ではバーテンダーをされたり、居酒屋チェーン店で修業をされ、お料理や接客業を学ばれたそうです。お料理の味はもちろんのこと、素材にもこだわりをお持ちなので、お料理のことを尋ねると、平田様のお話は止まりません!(笑)そしてこの季節のオススメは、生サンマと生シヤモだそうです。メニューにあります「生サンマ刺し」や、シヤモの天ぷらは絶品です!そして、必ず召し上がっていただきたいのが、平田様の集大成である「鶏すき炊き」です。いろいろご紹介したいのですが、楽しみは直接お店でご賞味していただきたいと思います♪

『美味しいごはんが食べたい!』と思ったら、ぜひ「さばお」に足を運んでみてください~(*^^*)



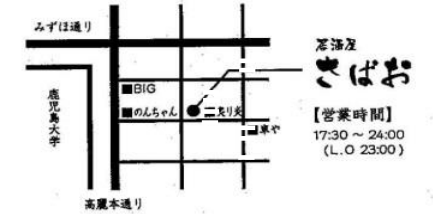
生サンマ刺し



しやもの天ぷら



鶏すき炊き



先月はマンションの契約で山口へ出張してきました。山陽新幹線の新山口駅で下車しましたが、たしか以前は小郡駅だったように思い、調べてみると、2003年10月、ダイヤ改正により駅名改称したそうです。契約後、その日のうちに山陽本線で下関まで行き、下関で宿泊。翌日は唐戸ターミナルよりフェリーへ乗船、関門海峡大橋を左手に見ながら関門海峡を渡り、門司港へ到着。門司の町を散策して鹿児島へ帰ってきました。私の中で下関といえば、定番のフグ、関門海峡、巖流島(宮本武蔵と佐々木小次郎の対決)、馬関、パイロット(水先案内人)、壇ノ浦の戦い、伊藤博文、高杉晋作、韓国等が浮かんできます。対岸の門司は訪れたことがありますが、関門海峡を渡る機会がなく、今回念願の下関でした。下関に着き駅前のホテルでチェックインを済ませ、夕食前の散策へ出かけました。キョロキョロしながら歩いていると高杉晋作の像の案内板を見つけ、案内通りに長い長い階段を昇ると日和山公園にそびえ立つ高杉晋作の立派な像が眼下に関門海峡を見おろしてました。この長い階段では訪れる人は少ないだろうと思いつつ、その後、海岸まで歩き、下関～釜山、青島航路の発着場所である下関国際フェリーセンターをのぞいてみました。待合所は、日本のおみやげを抱えた韓国の団体客が大勢フェリーの出発を待っていました。日本人は見当たらず韓国語の大きな声が飛び交う、賑やかな雰囲気を感じた後、食事を済ませ、駅前へ帰り、飲食店街を歩くと焼肉店の数が非常に多い事に気がつきました。

今回、食事を済ませる店はインターネットで事前に調べていたので、目的の居酒屋に入ると、観光客6割、地元のサラリーマン4割というお店でした。居酒屋放浪記の吉田類を気取って酒肴を注文したのですが、ちょっと残念な結果でした。インターネットではなく、地元の人に聞き自分の足と目で良い店を探すべきでした。



翌日は、フグだけでなく食材の豊富な唐戸市場(市場全体を2Fの渡り通路より見渡せるような設計になっているので、見物客も安全にゆっくり場内を見学できる)を見学し、その後、伊藤博文と李鴻章が日清講和条約を結んだ場所である、春帆楼(日本のふぐ料理公許第一号のふぐ料理店)で記念撮影です。今回は残念ながら春帆楼は素通りで、本場下関のふぐの味を確かめることはできませんでした。いつかは、初代内閣総理大臣、伊藤博文が愛した下関のふぐをゆっくり堪能したいものです。次は隣の赤間神社でご参拝です。赤間神社は壇ノ浦の戦いにおいて、幼くして亡くなった安徳天皇を祀っています。白壁に朱塗の水天門を入ると境内正面に、拝殿、平家一門の墓、芳一堂(小泉八雲の怪談で有名な耳なし芳一像)、宝物殿があります。境内は高台にあり、眼下にパイロット(水先艇)に誘導される巨大な貨物船が関門海峡を慎重に航行するのが見えます。源平最後の戦いである壇ノ浦の合戦によって栄華を誇った平家が滅亡し、源氏の鎌倉幕府創建へとつながっていき、又、九州各地に語り継がれている平家の落人伝説のきっかけとなった壇ノ浦の合戦が目の前で繰り広げられたと思うと感慨深さが増してきました。今回は下関について紹介しましたが、下関と門司はフェリーで約5分です。関門海峡を挟んで位置する下関と門司は全く違う町景色だと思います。門司は石炭の積み出しや貿易の中継基地としての役割をもつ湾湾都市として栄え、現在も旧大坂商船ビル、レンガ造りの旧門司税関ビル、旧門司三井倶楽部等の歴史的建造物が多数保存されており、門司港



旧三井倶楽部